



KOSHYU-KODO



甲州古道案内図

絵・西村繁男

<p>4 千人同心碑</p> <p>（追分陣馬街道に入り左すぐ）甲州街道の警備を目的として設置された十組千人の武士団が幕府から頂いた屋敷がある。</p>	<p>3 追分道標</p> <p>八王子追分は、甲州街道と陣馬街道の分岐点。分岐点の歩道橋下に道標がある。ここから高尾駅までのイチヨウ並木は見事。</p>	<p>2 八日市宿碑</p> <p>八日市宿は本陣、脇本陣を置き、甲州街道唯一の宿場として栄えた。八王子夢美術館の手前に宿跡の碑がたっている。</p>	<p>1 竹の鼻公園一里塚</p> <p>甲州古道、大和田橋を渡り、右に折れ、二つ目の五中の信号を斜めの方向に進むと公園に出る。江戸から11番目の里塚。</p>
<p>8 宝珠寺</p> <p>小仏バス停から約400m歩く。左手に宝珠寺がある。境内には、小仏のカゴキと呼ばれる都指定の天然記念物がある。</p>	<p>7 駒木野宿碑</p> <p>甲州街道の西浅川の交差点を過ぎ、さらに進むと駒木野宿になる。バス停付近に駒木野宿の碑と「駒木野宿」の碑がある。</p>	<p>6 南浅川橋</p> <p>昭和11年築のコンクリートアーチ式の威厳のある橋。多摩御陵（武蔵陵墓地）への参道となっている。河畔の景色が素晴らしい。</p>	<p>5 道標</p> <p>千人町を過ぎ、長房団地入口の信号から右に曲がり、50Mほど入り道標から左に曲がり、斜めに進むとまた20号に合流。</p>
<p>12 与瀬神社</p> <p>街道を行き交う人は、必ず参詣したといわれる。白装束姿で「ヤヨロニキヨロ」と神輿を担ぎ石段を下る神事。御幸は庄塞。</p>	<p>11 小原宿</p> <p>小原宿には築100年以上の古民家が今でも何軒が残っている。伊勢屋、小松屋などの屋号が当時の旅籠を偲ばせる。</p>	<p>10 小原宿本陣</p> <p>底沢、美女谷近辺を越え、小原宿本陣へ。江戸時代に信州の高島、高遠、飯田三藩の大名などが、宿泊したという歴史ある建物。</p>	<p>9 小仏峠</p> <p>この峠は、武蔵国と相模の国の国境であった。峠の名は、一寸八分の小仏像が、峠に安置されていたことが由来とされる。</p>
<p>16 増珠寺、関野</p> <p>吉野宿から藤野駅前までは歩道もなく、道幅も狭いので、駅に通じる通学路を歩く。関野宿近辺も同じく道幅が狭く危険。</p>	<p>15 六地藏</p> <p>吉野宿の途中、吉野本陣跡・吉野宿ふじやの手前右側に立てられている地藏尊。この一帯の西方に吉野橋がある。</p>	<p>14 道標、矢部</p> <p>橋沢を左に、高速道路を渡り、赤坂を左手に。桐戸道標を右へ、観福寺の先、桜野を右に下り、矢部の階段を下ると吉野宿へ。</p>	<p>13 貝沢の道標</p> <p>与瀬宿の西の端に沢が流れ込んでいる。沢沿いの林道から、沢に下る山道がある。これが旧甲州街道といわれる。</p>

発行 甲州夢街道 八王子・相模湖・藤野エリア <http://www.kosyu-yumekaido.jp/>

お問い合わせ先 八王子観光コンベンション協会 042-643-3115 <http://www.hachioji-kankokyokai.or.jp/>
相模湖観光協会 042-684-2633 <http://www7.ocn.ne.jp/~sagamiko/>
藤野観光協会 042-684-9503 <http://info-fujino.com/>

八王子商工会議所 042-623-6311
相模湖商工会 042-684-3347
藤野商工会 042-687-2138

「2018年3月発行」

甲州古道の歴史

「甲州街道」は、古くは「甲州海道」と呼ばれることもあり、ここでは「甲州街道」という表現に統一し、甲州街道の昔の道を「甲州古道」と表記しています。

甲州古道は、江戸時代以前から地域の人々の生活や交流の場として使用されてきました。江戸時代に幕府が甲州古道を五街道の一つとして整備した後においては、金を産出していた甲州に向かう「金の道」として発達し、また、西国の反乱から江戸を守る軍道としての役割も果たしてきました。

※甲州街道は古来より、ルート変更等が繰り返されていますが、この案内図で表現されている「古道」は主に江戸時代に制定された甲州街道を中心に記載しています。そのため、本古道案内図記載以外のルートも甲州古道である場合がございますのでご了承ください。

江戸時代の甲州街道

甲州街道は、日本橋から信州下諏訪に至る5里11町（10.3）の行程で宿場数は45宿だったといわれています。途中、山間僻地の通行が多いため、旅人は比較的少なかったそうです。

甲州街道を参勤交代した大名は諏訪高島藩（3万石）、伊那高遠藩（3万3千石）、伊那飯田藩（2万石）の三藩でした。

甲州街道の変遷

江戸から明治に体制が変わると国内の物流が活発になり各地で道の整備が行われました。

甲州街道では、難所の改良として、この峠を広げるか、和峠、もしくは大垂水峠を通る道路を造るか、という案が検討され、結果現在のルートに決定されました。明治17年春に着工、明治21年5月3日に完成しました。